

2024 年度 公益社団法人日本技術士会 中部本部 愛知県支部

## 第 9 回年次大会資料

日時： 2024 年 6 月 8 日（土）13：30～  
場所： ツドイコ 名駅東 カンファレンスセンター Room - C  
及び Web 開催

報告事項：

第 1 号報告 2023 年度 事業報告、決算報告  
第 2 号報告 2024 年度 事業計画案、予算案



中部本部 愛知県支部

# 目 次

第1号報告 2023年度 事業報告、決算報告	1
1.1 支部の活動内容	1
1.2 支部の会合	2
1.3 講演会等の開催実績	2
1.4 見学会の開催実績	2
1.5 総務広報委員会の活動内容	2
1.6 例会の詳細	3
1.7 防災委員会の活動内容	4
1.8 第49回技術士全国大会（愛知・中部）報告	5
1.9 決算報告	8
1.10 支部会員データ	10
第2号報告 2024年度事業計画並びに収支予算	11
2.1 事業推進の方針	11
2.2 具体的施策	11
2.3 支部活動計画	11
2.4 予算案	13
関連資料	14
愛知県支部の運営における個別事項に関する手引き	14
県支部にける組織体制	16
県支部委員会の所掌事項	17
県支部組織役員リスト	18
別冊資料	
愛知県支部社会貢献委員会 2024年度活動報告及び2024年度活動計画	

## 2023年度事業報告

(2023年4月1日～2024年3月31日)

### 1.1. 支部の活動内容

11月17～20日に名古屋国際会議場で第49回技術士全国大会（愛知・中部）が行われた。その準備や運営は中部本部の全国大会実行委員会組織にて進めたが、これに対し支部としても全力を注ぎ込んで取り組んだ。全国各地から500名を超える技術士会員らを迎え、式典、記念講演、分科会、専門会議・連絡会議、展示会、ウェルカムパーティ、大交流パーティ、ツアーなど数多くのイベントを実施した。これらを通じて得たものは多く、高レベルの自己研鑽だけでなく人脈ネットワークの拡大、規模の大きなイベントの企画運営ノウハウなどは今後の支部運営を一回りレベルアップさせられるという手応えを得た。

支部として実施した活動は例年に比べて少なかったが、役員会、委員会、年次大会、例会、ワーキンググループ、防災支援活動などを実施した。Webと対面の両方で実施するいわゆるハイブリッド方式はほぼ定着したが、発信力強化やそれに伴う例会などの参加者数の拡大などは今後の課題と感じた。

#### (1) 支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

6月10日にWebと対面のハイブリッドで年次大会を開催。

#### (2) 役員会及び委員会

- 1) 支部長を含む23名で構成された支部役員会を6回開催
- 2) 委員長を含む6名で構成された社会貢献委員会を1回開催
- 3) 委員長を含む11名で構成された防災委員会を4回開催

#### (3) 行事

- 1) 企画研修委員会による業績発表会をWebと対面のハイブリッドで開催
- 2) 防災委員会（中部本部建設部会・中部本部防災支援小委員会共催）による講演会を1回開催

#### (4) その他

- 1) 第49回技術士全国大会（愛知・中部）に向けた準備や運営の取り組みを精力的に実施。
- 2) 社会貢献委員会食問題研究会では「食に関わる問題の研究及び自己研鑽」を11回実施
- 3) 同じく、社会貢献委員会企業活動研究会では「環境・品質・安全とISO国際規格など企業活動に関する諸問題の研究」を11回実施。
- 4) 同じく、社会貢献委員会「わいがやフォーラム」では「地域・中小企業支援、技術者の技術テーマについて月1回の頻度で議論し、12回実施。
- 5) 防災委員会では愛知県内の町村の災害支援として技術講習会を2回実施。

1. 2. 支部の会合

区分	年次大会 (全体会合)	役員会	委員会	講演会 など	見学会	その他	計
回数	1	6	5	1	0	34	47

1. 3. 講演会等の開催実績

開催日	講演名	講演者所属	講演者 (敬称略)	参加人数
2023年6月 10日(土)	これからの技術者に求められるもの ～「未来を拓き次代を創る 技術のエキスパート」として	日本技術士会 近 畿本部 本部長	田岡直規	37
2024年3月 24日(日)	豊田合成(株)が何故青色 LEDを開発したか? 青色LED 中心の新商品開発、SDGs 関 連について	エム・ティ・シ ー株式会社 代 表取締役	真部勝英	39
	金属部品塗装の収益改善 活動～原価低減と価格転嫁 交渉の成果発表～	藤塗装工業株式 会社 営業部長、 同社 原価改善 リーダー	伊藤太祐  豊丸末菜	

1. 4. 見学会の開催実績

見学会は開催しなかった。

1. 5. 総務広報委員会の活動内容

2023年度は、新型コロナの扱いが5月連休以降、第2類→第5類になり、面直会議及びオンライン会議による実施を予定していたが、実際は、後記の第49回技術士全国大会実施に注力したため、県支部役員会前にメール審議を行うことで対応した。

なお、当年度から、会計業務は麻田委員から高桑委員に交代となった。

2023年11月17～20日開催の第49回技術士全国大会(愛知・中部)は、テーマを「**地球を守る、社会を守る、求められる技術士の活躍 ～新たな発見に向けて～**」として、別組織となる大会実行委員会を中心に5/21、7/29、9/23、10/21、11/3に準備打合せを行い、11/17に本番を迎え、無事終了することが出来た。メイン会場は名古屋国際会議場である。有料参加人数は524人であり、大会式典+記念講演、4分科会、1連絡会、7専門部会、ウェルカムパーティー、大交流会、各ツアー、技術展示をそれぞれ実施した。そして本番終了後、実行委員会では、反省会2/3、慰労会2/7を行った。

また、国の施策により、10/1からインボイス制度が施行されたのに伴い、各催事時に発生する参加メンバーの交通費等の支払いを、現金手渡しから、銀行等の口座振込みにより行う様に変更した。`24年1月度分から対応済みである。

## 1. 6. 例会の詳細

### (1) 2023 年度第 1 回例会（企画研修委員会開催）業績発表会

日 時：2024 年 3 月 24 日（日）13：30～16：15

場 所：ツドイコ名駅東カンファレンスセンター Room-C、及び Web による開催

参加者：39 名（会場 24 名（内発表者 5 名）、Web15 名

目 的：技術士が中小企業を支援するきっかけからその活動状況・成果の報告を例紹介。中小企業の支援事例を通して、技術士の支援の在り方について考え、活躍の場の創出につなげる。

#### <講演 1 >

演 題：「豊田合成は青色 LED で何故開発成功出来たか、青色 LED 中心の新商品 開発及び SDGs 関連の新商品開発について」

講演者：エム・ティ・シー(株) 代表取締役 真部勝英氏

支援する技術士：原国際技術士事務所 代表 原浩之氏（機械／金属部門）

内 容：最初に原浩之技術士から、支援するきっかけについて経緯などを説明された。

その後、真部勝英氏から発表があり、まず、豊田合成(株)が名大、赤崎研究室及び科学技術振興機構と青色 LED を 共同研究開発し何故成功出来たかを中心に、異事業に進出した経緯、青色 LED の構造、研究体制、費用及び競合メーカー等について発表があった。また、青色 LED を利用した LED 表示消火器、育毛器具、シミ取り器具、光る七宝焼き、及び LED 光線治療健康器具の新商品開発の状況について、さらに、SDGs 関連新商品として無公害無機洗剤、ライフジャケット付防災バッグ、波 力発電装置について発表があった。

#### <講演 2 >

演 題：金属部品塗装の収益改善活動～原価低減と価格転嫁交渉の成果発表～

講演者：藤塗装工業株式会社 営業 伊藤太佑氏、原価改善リーダー 豊丸未菜氏

支援する技術士：ガッツコンサルタント 代表 可児正勝氏（機械部門）

内 容：最初に可児技術士から、支援に至る出会いから活動に至る経緯について説明をされた。その後、藤塗装工業株式会社営業部長の伊藤太裕氏から、主に自動車部品の塗装を手掛ける中小企業において、技術士の指導のもと、どのように収益改善のため製造原価の見える化、原価低減を推進して行ったのかについての活動概況を発表された。その後、原価改善リーダーの豊丸未菜氏から、チーム一丸となって大手企業へ価格転嫁交渉に挑戦し成果を出した活動事例を発表された。

総 括：全国大会開催により 2023 年度の例会開催は 1 回にとどまった。

第 1 回例会の業績発表会では技術士が活躍して、企業における開発や改善につなげた実例が 2 件報告され、参加した技術士にとって、その活動例として非常に参考になったと思う。このような例会へのより多くの参加者が望まれる。改善課題としては、参加者増加のための周知方法と、WEB 配信における設備を含めた技術的な改善などがある。

## 1. 7. 防災委員会の活動内容

防災委員会では、技術士としての災害時支援活動に関する検討や、講演会による会員の防災スキルの向上を図るための取り組みなどを進めている。2023年度は、防災委員会を4回開催し、以下に示す具体的な活動を実施した。

### (1) 町村災害支援活動（技術講習会）

災害時支援に関連する活動の一つとして、愛知県内町村における職員の技術スキル向上と平時からのつながりを維持するため、2022年度に引き続き以下の技術講習会を実施した。

（講習内容） コンクリート講習（実務編）

（開催日時） 前編：7/14（金）13:30～17:00、後編：9/22（金）13:30～17:00

（講師） 愛知県支部防災委員会 平野委員、後藤委員、平澤委員

（開催場所） 南知多町役場 会議室

（対象者） 南知多町土木関係職員（参加人数 7/14：8名、9/22：7名）

### (2) 講演会

中部本部建設部会・中部本部防災支援小委員会との共催により、防災に関連する講演会を開催した。2023年度は1回のみとなり、2022年度と同様にWEB開催とした。講演会の内容は以下の通りである。

（日時） 10/14（土）15:00～17:00（WEB開催）

（テーマ） 「流域治水を踏まえて地域で進める水害への備え」

（講師） 名古屋大学減災連携研究センター 副センター長・特任教授 田代 喬 氏

（聴講者） 37名

### (3) 技術士全国大会第1分科会（防災）の企画・運営

第49回技術士全国大会（愛知・中部）での第1分科会（防災）における講演会の企画・運営を行った。講演会の内容は以下の通りである。

（日時） 2023年11月18日（土）9:30～12:20

（会場） 名古屋国際会議場 224

（テーマ） 「改めて自然災害を知り、技術士として考える」

（講演1） 水災害

演題：「気候変動時代の豪雨災害に備える」

講師：名古屋大学教授 戸田祐嗣氏

（講演2） 地震災害

演題：「南海トラフ地震を乗り越えるために」

講師：名古屋大学名誉教授 福和伸夫氏

（参加者） 103名

### (4) 災害時支援活動計画（SAPD）への対応

統括本部では「災害時支援活動計画」を改訂し、中部本部においても統括本部と連携するため、中部本部版「災害時支援活動計画」を策定した。これに対応するため、愛知県支部版「災害時支援活動計画」の検討を進めている。（継続中）

1. 8. 第 49 回技術士全国大会（愛知・中部）報告

大会テーマ「地球を守る、社会を守る、求められる技術士の活躍 ～新たな発見に向けて～」		
開催日	2023 年 11 月 17 日（金）～20 日（月）	
開催場所	名古屋国際会議場	
後援	<p>文部科学省、愛知県、名古屋市、農林水産省東海農政局、経済産業省中部経済産業局、国土交通省中部地方整備局、環境省中部地方環境事務所、国立大学法人東海国立大学機構、国立大学法人三重大学、国立大学法人名古屋工業大学、学校法人名城大学、学校法人中部大学、公益社団法人土木学会中部支部、公益社団法人地盤工学会中部支部、公益社団法人砂防学会中部支部、公益社団法人日本地すべり学会中部支部、公益社団法人日本化学会東海支部、公益社団法人化学工学会東海支部、公益社団法人日本金属学会東海支部、公益社団法人日本経営工学会中部支部、一般社団法人日本機械学会東海支部、一般社団法人電気学会東海支部、一般社団法人情報処理学会東海支部、一般社団法人電気情報通信学会東海支部、一般社団法人照明学会東海支部、一般社団法人日本応用地質学会中部支部、一般社団法人繊維学会東海支部、一般社団法人建設コンサルタント協会中部支部、一般社団法人愛知県測量設計業協会、一般社団法人日本建設業連合会中部支部、一般社団法人中部経済連合会、一般財団法人省エネルギーセンター東海支部、名古屋商工会議所、中部エレクトロニクス振興会</p>	524 名
行事	<p>11 月 17 日（金）            専門会議、連絡会議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・技術者倫理情報連絡会：「委員会からの活動報告と意見交換会」</li> <li>・機械部会：「講演会と討議」</li> <li>・電気電子部会：「見学会」</li> <li>・建設部会：「統括本部建設部会と地域本部（建設部門）の活動内容、課題の共有」</li> <li>・化学・金属・繊維・資源工学部会：「見学会と意見交換会」</li> <li>・上下水道部会：「講演会」</li> <li>・経営工学部会：「統括本部、近畿本部、中部本部部会長による活動報告と講演会」</li> <li>・情報工学部会：「講演会」</li> <li>・応用理学部会：「講演会」</li> </ul> <p>技術展示</p> <p>ウェルカムパーティー</p>	<p>71 名</p> <p>57 名</p> <p>42 名</p> <p>49 名</p> <p>40 名</p> <p>99 名</p> <p>57 名</p> <p>46 名</p> <p>114 名</p> <p>313 名</p>

11月18日(土)	
分科会	
・第1分科会(防災) 「改めて自然災害を知り、技術士として考える」	103名
・第2分科会(環境・エネルギー) 「エネルギーや環境についての課題に取り組むため、我々技術士は何を学び、どう貢献すべきか」	101名
・第3分科会(青年) 「ついしたくなる仕掛けで社会課題を解決するワークショップ」	71名
・第4分科会(ジェンダー) 「自分らしく生きるために～歴史からジェンダーを考える～」	47名
大会式典	364名
・開会挨拶 大会委員長 日本技術士会中部本部本部長 平田 賢太郎	
・式 辞 日本技術士会 会長 黒崎 靖介	
・祝 辞 文部科学大臣 盛山 正仁 氏	
・来賓挨拶 愛知県知事 大村 秀章 氏 名古屋市長 河村 たかし 氏 国土交通省 中部地方整備局 局長 佐藤 寿延 氏	
・大会宣言 宣言代表者 日本技術士会中部本部 赤崎 みどり	
・閉会挨拶 第49回技術士全国大会実行委員長 野々部 顕治	
分科会報告	
歓迎演奏 ヴァイオリン演奏 辻 純佳 氏	
記念講演 演 題：愛知の産業発展の歴史 ～ナゴヤのものづくりの多様性～ 講 師：南山大学経済学部 林 順子 教授	
技術展示	
大交流パーティー (ANA クラウンプラザホテル グランコート名古屋)	284名

ツアー	11月18日(土) ・パートナーズツアー(徳川家康ゆかりの地)	22名
	11月19日(日)(日帰りコース) ・テクニカルツアー(交通・産業文化と名古屋城)	27名
	11月19日(日)~20日(月)(1泊2日コース) ・テクニカルツアー(愛知・岐阜 航空産業めぐり)	15名

1. 9. 決算報告

収支計算書 (2023年 4月 1日から2024年 3月31日まで)

統合会計 (地域組織)  
一般会計

愛知県支部  
(単位: 円)

科 目	予算額	決算額	差 異
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
事業収入	[ 750,000]	[ 75,000]	[ 675,000]
自主事業収入	( 750,000)	( 75,000)	( 675,000)
参加費収入	550,000	75,000	475,000
外部依頼管理収入	200,000	0	200,000
地域組織収入	[ 850,000]	[ 850,000]	[ 0]
地域組織活動費収入	850,000	850,000	0
雑収入	[ 10,000]	[ 23,410]	[△ 13,410]
雑収入	10,000	23,410	△ 13,410
事業活動収入計	1,610,000	948,410	661,590
2. 事業活動支出			
事業費支出	[ 1,605,000]	[ 512,327]	[ 1,092,673]
事業広報費	( 155,000)	( 3,300)	( 151,700)
会誌郵送費	5,000	0	5,000
ネット運用費	10,000	3,300	6,700
その他の広報活動費	140,000	0	140,000
研鑽費	( 800,000)	( 241,870)	( 558,130)
講演会・見学会開催費	800,000	241,870	558,130
業務推進費	( 650,000)	( 267,157)	( 382,843)
賃金	100,000	60,000	40,000
会議費	100,000	116,288	△ 16,288
旅費交通費	250,000	75,360	174,640
通信運搬費	10,000	0	10,000
消耗品費	10,000	0	10,000
印刷製本費	50,000	0	50,000
各種会合費	50,000	0	50,000
雑費その他	80,000	15,509	64,491
事業活動支出計	1,605,000	512,327	1,092,673
事業活動収支差額	5,000	436,083	△ 431,083
II 投資活動収支の部			
1. 投資活動収入			
投資活動収入計	0	0	0
2. 投資活動支出			
投資活動支出計	0	0	0
投資活動収支差額	0	0	0
III 財務活動収支の部			
1. 財務活動収入			
財務活動収入計	0	0	0
2. 財務活動支出			
財務活動支出計	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0
IV 予備費支出	0	0	0

科 目	予算額	決算額	差 異
当期収支差額	5,000	436,083	△ 431,083
前期繰越収支差額	3,291,000	3,766,329	△ 475,329
次期繰越収支差額	3,296,000	4,202,412	△ 906,412

## 貸借対照表

2024年 3月31日現在

統合会計（地域組織）  
一般会計

愛知県支部  
（単位：円）

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	4,181,538	3,766,329	415,209
現金	75,214	198,389	△ 123,175
普通預金	4,106,324	3,567,940	538,384
未収金	32,000	0	32,000
流動資産合計	4,213,538	3,766,329	447,209
資産合計	4,213,538	3,766,329	447,209
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	11,126	0	11,126
流動負債合計	11,126	0	11,126
負債合計	11,126	0	11,126
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産			
正味財産合計	4,202,412	3,766,329	436,083
負債及び正味財産合計	4,213,538	3,766,329	447,209

## 財産目録

2024年 3月31日現在

統合会計（地域組織）  
一般会計

愛知県支部  
（単位：円）

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金 額
(流動資産)			
現金	手元保管	運転資金として	75,214
預金	普通預金		4,106,324
	愛知/ゆうちょ銀行		4,067,940
	愛知/三菱UFJ銀行		38,384
未収金			32,000
流動資産合計			4,213,538
資産合計			4,213,538
(流動負債)			
未払金			11,126
流動負債合計			11,126
負債合計			11,126
正味財産			4,202,412

1. 10. 支部会員データ

会員数

(1) 各県下の個人会員数（中部本部傘下の会員数）

県名	日本技術士会会員 (2024年3月31日現在)		
	名誉会員及び 正会員	準会員	合計
愛知県	785	183	968
岐阜県	184	49	233
三重県	105	37	142
静岡県	270	80	350
中部計	1344	349	1693

(2) 全国の個人会員数(2024年3月31日現在)

正会員及び名誉会員 16,241 名、準会員 3,148 名、合計 19,389 名

部門別正会員・準会員数(2024年3月31日現在)

部門	愛知県支部			全国		
	正会員及 び名誉会 員	準会員	合計	正会員及 び名誉会 員	準会員	合計
機械	152	52	204	1891	469	2360
船舶・海洋	0	1	1	23	7	30
航空・宇宙	17	8	25	86	37	123
電気電子	90	20	110	1908	390	2298
化学	23	7	30	494	157	651
繊維	5	1	6	94	9	103
金属	25	4	29	384	52	436
資源工学	1	0	1	58	4	62
建設	339	36	375	7193	885	8078
上下水道	58	8	66	1197	165	1362
衛生工学	41	10	51	594	94	688
農業	31	2	33	900	130	1030
森林	9	0	9	352	35	387
水産	3	4	7	214	32	246
経営工学	25	5	30	587	108	695
情報工学	32	16	48	881	289	1170
応用理学	39	1	40	923	88	1011
生物工学	7	3	10	224	120	344
環境	48	12	60	823	172	995
原子力・放射線	1	1	2	231	23	254
総合技術監理	186	0	186	4486	2	4488

## 2024年度 事業計画

### 2. 1. 事業推進の方針

技術士全国大会は終了し、ようやく以前とほぼ同じような活動ができるようになりました。それどころか全国大会を経験したことにより様々なイベントや実務の企画運営力は底上げされていると考えます。まずは人脈ネットワーク拡大による組織の活性化に取り組みます。組織を元気にすることは波及効果が大きく、他の課題の解消に向けたエネルギーを生み出すこととなります。そして技術士の資質向上を見据えて、質の高い例会やWG活動などを通じた継続研鑽の充実を図ります。

会員の皆様へのサービスを第一に考えることはもちろんですが、役員その他のメンバーの負荷のことも考慮に入れて、場合によっては的をある程度絞って出来ることを着実に取り組みます。

### 2. 2. 具体的施策

次の3項目の具体策を実行します。

#### 1) 会員へのサービスの質の向上

- ・役員らの負荷を考慮して実施内容を見直し、出来ることを確実に遂行する。
- ・全国大会にて得た経験を活かし、新たな取り組み方にもチャレンジする。

#### 2) 人脈ネットワーク拡大による組織の活性化

- ・全国大会などを通じて得られた人脈ネットワークを有効に活用し、活動範囲を拡大する。
- ・新合格者、企業内技術者や大学生に対して、技術士会の魅力をアピールする。
- ・例会などの参加者数の向上と、会の運営に携わる人材を育成する。

#### 3) より優れた継続研鑽による資質向上

- ・より質の高い例会やWGを通じ、多くの気づきや学びが得られるようにする。
- ・Web その他の新ツールを活用した新しい例会運営を確実に実施できるようにし、時代の流れを視野に入れた斬新な手法にチャレンジし、会員の満足度を向上させる。

### 2. 3. 支部活動計画

#### 1) 例会（講演会）開催

2024年度は次のとおり。

- |           |                |         |
|-----------|----------------|---------|
| ・6月8日（土）  | 年次大会：特別講演会     |         |
| ・9月22日（日） | 第1回例会「講演会」     | 社会貢献委員会 |
| ・11月9日（土） | 第2回例会「ワークショップ」 | 社会貢献委員会 |
| ・10～11月頃  | 第3回例会「見学会」     | 企画研修委員会 |
| ・12月      | 第4回例会「講演会」     | 防災委員会   |
| ・3月下旬     | 第5回例会「業績発表会」   | 企画研修委員会 |

#### 2) 役員会の開催

下記のとおりとする。(Teams と対面のハイブリッドを基本とする。)

4月20日（土）午前、5月12日（日）午前、6月2日（日）午前、9月22日（日）午前、12月1日（日）午前、3月23日（日）午前

### 3) 支部委員会活動

#### 3-1) 総務広報委員会

- ・例会等の運営
- ・統括本部、他地域本部、県支部及び委員会、部会等との連携方策
- ・県内一部地域における会員活動への支援  
特に本年度は Web を主体とした例会とし、いつでもどこからでも参加しやすい環境とすることで、例会への参加者の増加を推進する。また、Web のみの開催行事では参加費は無料とし、気軽に参加しやすい環境と行事の費用処理の簡便化を図る。
- ・別紙掲載の役割職掌に基づく今年度の活動の進行

#### 3-2) 企画研修委員会

- ・例会等による会員の自己研鑽の促進
- ・統括本部、他地域本部、県支部及び委員会、部会等との連携方策
- ・県内一部地域における会員活動への支援

#### 3-3) 社会貢献委員会

- ・講演会及びワークショップの立案、発信とその運営
- ・愛知県支部の会員による活動グループ（研究会）の運営
- ・他の社会貢献活動の強化

#### 3-4) 防災委員会

- ・講演会の企画・運営（中部本部建設部会・中部本部防災支援小委員会との共催）
- ・災害時支援活動の一環である愛知県内自治体職員を対象とした技術講習会の開催
- ・災害時支援活動計画（SAPD）策定に向けた検討と愛知県支部版 SAPD の作成
- ・愛知県弁護士会をはじめとする土業連携に関する検討

### 4) 支部会員数の拡大

- ・県内の企業内技術者や大学生に対して、技術士の魅力をアピール。
- ・講演会やネットを通じて技術士会に参加することの意義とメリットを発信。

2. 4. 2024 年度 予算案

公益社団法人日本技術士会 中部本部愛知県支部 2024 年度予算案  
(2024 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日まで)

(単位：円)

科 目	2024 年度 (予算案)	2023 年度 (決算)	2023 年度 (予算)
<b>I 事業活動収支</b>			
1 事業活動収入			
(1) 自主事業収入(参加費収入)	600,000	75,000	750,000
(2) 地域組織活動費収入	850,000	850,000	850,000
(3) 地域組織活動補助費収入(講演会・見学会補助費)	0	0	0
(4) 雑収入	10,000	23,416	10,000
事業活動収入計 (A)	1,460,000	948,419	1,610,000
2 事業活動支出			
(1) 事業費	1,395,000	512,327	1,605,000
① 事業広報費(インターネット運用費など)	155,000	3,300	155,000
② 普及啓発費(合同セミナー開催費など)	0	0	0
③ 研鑽費(講演会、見学会開催費など)	640,000	241,870	800,000
④ 事業促進費(対外活動促進費)	0	0	0
⑤ 業務推進費(会議費,旅費交通費,印刷製本代など)	600,000	267,157	650,000
(2) 管理費	0	0	0
事業活動支出計 (B)	1,395,000	512,327	1,605,000
当期収支差額(事業活動収支差額) (A) - (B)	65,000	436,083	5,000

※ 2-(1)-①：インターネット運用費 (10,000)、その他の広報活動費 (145,000)

※ 2-(1)-②：合同セミナー開催無

## 愛知県支部の運営における個別事項に関する手引き

2016. 3. 18 愛知県支部役員会制定

2017. 6. 11 愛知県支部役員会制定

2021. 6. 6 愛知県支部役員会制定

(目的)

第1条 この手引きは、「地域組織の設置運営に関する規則第16条」(個別規則の制定)第1項第4号及び「地域組織運営における個別事項を定めるモデル手引に関する規則」に基づき、愛知県支部(以下、「当支部」という。)の運営について個別の事項について定める。

### 第1章 基本運営

(役員会の開催)

第2条 役員会は、毎年6回以上の開催を基本とする。

(副支部長および幹事の定数)

第3条 副支部長の定数を5名以内とする。

2 幹事の定員を30名以内とする。

(運営組織)

第4条 別記表1に掲げる委員会等を設置し、当支部の運営に当たる。

(委員会)

第5条 委員会は、別記表2に掲げる事項を所掌する。

2 委員会委員の定数は、委員補佐を除き30名以内とする。

(交通費支給範囲)

第6条 当支部は以下の場合、対応した会員の交通費について実費相当額を支給することとする。

- (1) 当支部の代表として出席する外部団体の会議等
- (2) 地域組織委員会が主催する行事運営要員としての行事の参加
- (3) その他、特別な理由により支部長が承認した場合。

### 第2章 協賛団体

(協賛金)

第7条 協賛団体からの協賛金は、1口20,000円(年間)とする。

(協賛団体の扱い)

第8条 協賛団体の取扱いは、次のとおりとする。

- (1) 協賛団体の代表又はその代理者は、当支部年次大会に出席し意見を述べることができる。
- (2) 協賛団体は、当支部会誌又はその他刊行物の配布を無償で受け、当支部の事業成果を当支部の了解を得て利用することができる。
- (3) 協賛団体の構成員は、当支部が主催する会合、講演会等(懇親会は除く)に参加する場合、

参加費については、協賛金 1 口当り 10 名まで無料で参加することができる。

### 第 3 章 事務局

(所在地)

第 9 条 事務局事務所は、名古屋市に置く。

(体制)

第 10 条 事務局体制は、次のとおりとする。

- (1) 事務局長 (正会員 1 名)
- (2) 事務局次長 (当面置かない)
- (3) 事務局職員 (当面置かない)

(報酬)

第 11 条 事務局を務める以下の者には、実費相当の交通費の他、報酬については役員会で定めた報酬を支払うことができる。

- (1) 事務局長 常勤でない場合、原則無償とする。
  - (2) 事務局職員を置いた場合、本部長が決定した金額の報酬を支払う。
- 2 前項の規定に基づく報酬支払いに当たっては、支部長と本人又は派遣元との間において、報酬、勤務条件等を定めた覚書又は契約書を締結し、役員会に付議しなければならない。

### 第 4 章 依頼業務

〈依頼業務〉

第 12 条 当該地域における自治体又は企業等から技術士業務に関わる依頼があった場合の詳細については、別に定める「中部本部外部依頼対応要領」による。

### 第 5 章 その他

(事務所会議室利用)

第 13 条 事務所会議室の利用については、当支部長の下承を得なければならない。

(本手引きの改廃)

第 14 条 本手引きの改廃については、「地域組織の設置運営に関する規則」第 16 条の規定による。

(オンラインによる会議または例会の実施方法)

第 15 条 オンラインによる会議または例会の実施については、別に定める「Zoom アカウント使用の暫定ルール」による。

附則 (平成 28 年 3 月 18 日)

この手引きは、平成 28 年 3 月 13 日中部本部総務委員会の審議を経て、平成 28 年 3 月 18 日から施行する。

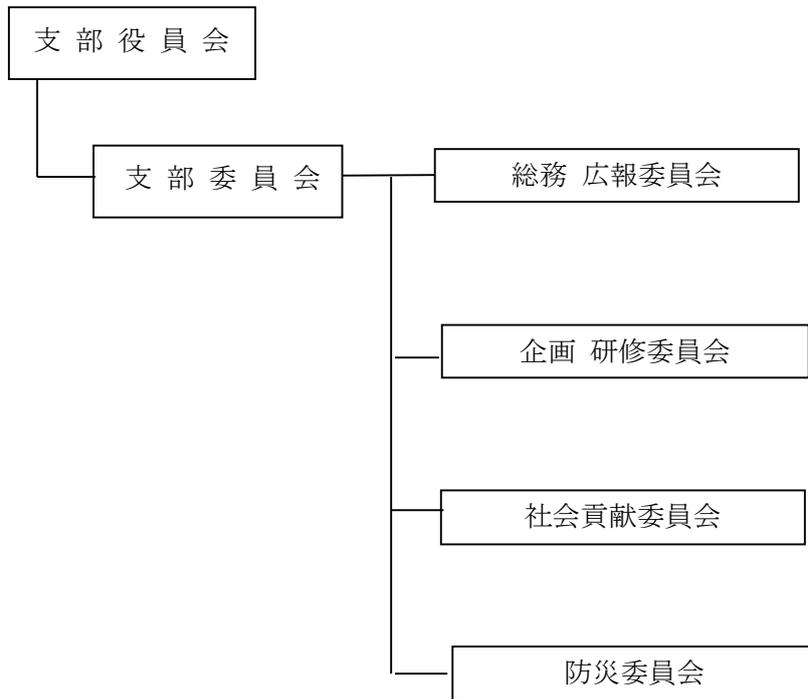
附則 (平成 29 年 6 月 11 日)

この手引きは、平成 28 年 11 月 20 日中部本部総務委員会の審議を経て、平成 29 年 6 月 11 日から施行する。

附則 (令和 3 年 6 月 6 日)

この手引きは、令和 3 年 6 月 5 日中部本部役員会の審議を経て、令和 3 年 6 月 6 日から施行する。

【別記表1】県支部における組織体制



## 【別記表2】県支部委員会の所掌事項

県支部委員会	主要な業務
総務広報委員会	<p>(総務、会規、広報、情報交流)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本会の秩序・信用の維持、運営管理及び会員の顕彰に関する事項</li> <li>・県支部会報の企画、編集、発行</li> <li>・技術士及び本会外部に向けた広報</li> <li>・ホームページの活用に関わる企画、立案及び維持管理</li> <li>・Web を活用した会議や例会のアカウント管理や運営に関すること</li> </ul>
企画研修委員会	<p>(企画、CPD 研修、見学、講演会、研修)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本委員会の事業実施についての全般的企画及び財務の管理に関する事項</li> <li>・役員会で企画された技術士の研修及び技術系人材の育成に関する行事、実施に関する事項</li> <li>・技術士 CPD 推進のための研鑽、講演会等諸行事の調査・企画・運営</li> <li>・技術士 CPD の啓発</li> </ul>
社会貢献委員会	<p>(活用促進・業務紹介・WG・開業支援)</p> <p>主に技術士会以外の組織や一般の方々に対し、技術情報の発信、指導、教育、相談などを通じて貢献し、地域経済や産業の発展に寄与する。</p> <p>主要な業務は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活用促進：技術士業務の活用促進支援。業務の受諾、紹介。</li> <li>・理科支援：主に小中学生に対し、科学技術に対する夢を膨らませるような理科特別授業の実施。</li> <li>・食問題研究：食文化と食の安全、生産技術や HACCP 等の品質管理規格など食に係る問題の研究及び自己研鑽、並びに外部への発信。</li> <li>・企業活動研究：環境・品質・安全と ISO 国際規格など企業活動に関する諸問題の研究及び自己研鑽、並びに外部への発信。</li> <li>・わいがやフォーラム：地域・中小企業支援、技術者の技術テーマ</li> </ul>
防災委員会	<p>(防災・減災支援活動、発災時の中部本部との連携、防災支援員に関する事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災・減災支援対応：愛知県や県内自治体、中部本部との連携、県内市町村などの要請があれば支援活動の実施、自治体との支援協定の締結など</li> <li>・防災教室・防災セミナーの開催</li> <li>・防災専門家養成：防災支援員の研修、会員の防災に関するスキル向上</li> <li>・防災・減災・復興（BCP 含む）に関する諸問題の研究および自己研鑽、並びに外部への発信</li> </ul>

県支部組織役員リスト

支部役員会	
支部長	野々部顕治（社会貢献委員長）
副支部長	上田直和（全般）
同 上	池田実（総務広報委員長）
同 上	竹下敏保（企画研修委員長）
同 上	庄村昌明（防災委員長）
事務局	総務広報委員会
会計幹事	高桑俊也
幹 事	（池田実、他 23 名）

※愛知県支部幹事の氏名には、  
下表でアンダーラインを示す

<b>総務広報委員会</b> （総務・会規／広報・情報交流）
委員長： <u>池田実</u> 副支部長 総務広報委員： <u>山口正隆</u> 、 <u>麻田祐一</u> 、 <u>西本テツオ</u> <u>高桑俊也</u> 、 <u>河村裕司</u> 、 <u>稲垣拡之</u>
<b>企画研修委員会</b> （企画／ CPD 研修、見学、講演会、研修）
委員長： <u>竹下敏保</u> 副支部長 企画研修委員： <u>今津英一郎</u> 、 <u>山田豊久</u> 、 <u>跡部昌彦</u> 、 <u>可児正勝</u> 、 <u>泉川大輔</u> 、 <u>城地貴裕</u> 、 <u>中村朋裕</u>
<b>社会貢献委員会</b> （活用促進・理科支援・企業支援・食問題・わいがや）
委員長： <u>野々部顕治</u> 支部長(活用促進、理科支援) 社会貢献委員： <u>長谷川欽一</u> <u>新美 由香史</u> 、 <u>松田則雄</u> （企業支援）、 <u>稲垣拡之</u> 、 <u>森永泰彦</u> （わいがや WG）
<b>防災委員会</b>
委員長： <u>庄村昌明</u> 副支部長 防災委員： <u>平澤征夫</u> 、 <u>中野錦也</u> 、 <u>後藤徳善</u> 、 <u>山口正隆</u> 、 <u>池田 実</u> 、 <u>小川幸久</u> <u>古川覚一</u> 、 <u>打田憲生</u> 、 <u>鈴木孝典</u> 、 <u>平野正浩</u> 、 <u>壽松木一哉</u> ※

※新任

愛知県支部社会貢献委員会  
2023年度活動報告及び2024年度活動計画

- 1 食問題研究会
- 2 企業活動研究会
- 3 わいがやWG
- 4 理科支援担当

活用促進担当については、  
特記事項はありません。

## 2023年度 食問題研究会の活動状況報告

2024年4月13日

中部本部愛知県支部 社会貢献委員会 食問題研究会

### 1. 2023年度のWGの主な活動状況

新型コロナウイルスの5類指定への変更は行われたが、当年4月から事前計画に沿い、WEB通信ソフトウェア zoom によるリモート会議に切りかえ、82回から92回の会議を開催した。当研究会は1999年の発足当時、食品品質ならびに環境規格の日本導入の流れを受け、HACCPを中核テーマに据えた勉強会として出発した。現在では、食品原材料調達、生産課題ならびに消費者に至るサプライチェーンを意識した幅広いテーマを設定している。

2023年度は、技術士以外の一般参加者を含む毎回5~9人の参加者をもって、世相で話題になった社会的および技術的動向について議論をした。また上記に加え、東海地方の伝統食文化、食品業際の環境問題と関連する容器包装プラスチック生産技術やバイオテクノロジー関連の話題も適宜取り上げた。

### 2. 2023年度の当初計画

#### 1) テレビ会議システムの維持と発展

テレビ会議システムを継続するとともに、その在り方や発表方法の一層の発展を図る。また、適切な時期に対面での会議も復活させることも検討する。

#### 2) 食品関連情報の交換討議

食品と食文化、食の生産・流通・消費と食の品質と安全に関する情報の収集と討議

#### 3) 食品関連情報のまとめと情報発信

技術士会会員と一般向けの情報発信への取り組み

### 3. 活動実績

#### 1) テレビ会議システムによる活動の継続

新型コロナの感染状況から対面での会議は実現できず、Zoomによるテレビ会議でのと運営となった。

#### 2) 食品関連情報の交換討議

食品と食文化（伝統文化含む）、食の生産・流通・消費を念頭下サプライチェーン課題、食の品質と安全に関する情報収集と関連討議は計画通り進捗した。主に検討した話題は、前年度に引き続き、ゲノム編集関連技術とその食品産業への応用、機能性食品等食品の表示、食中毒の関連情報、食品添加物の安全性、食品ロスと廃棄物、食品容器・包装と環境問題、食品関連法規制等の多岐にわたった。当年は、委員で話題に上った新型コロナウイルス関連や感染動向も討議話題とした。

#### 3) 食品関連情報のまとめと情報発信

当研究会以外の技術士会会員ならびに一般向け情報発信の取り組みは、検討を重ねるもいまだ有効に機能

できておらず、2023年度の課題とする。また、ロシアによるウクライナ侵攻と新型コロナによるパンデミックによるサプライチェーンの寸断の影響が、我が国の生産システムに影響する中、我が国の食問題関連産業にも大きな影響をもたらしたが、それに対する分析や提言活動や情報発信業務は、不十分なままに終わった。今後の課題としたい。

#### 4) その他

食と医療等その他の関連問題についても、不定期であったが会員各位から情報提供があった。

### 4. 予算と実績

前年度同様、Zoomでの対応が中心であり、活動費は、発生していない。

(代表 長谷川：会計本堀雷太)

以上

## 2024 年度 食問題研究会活動計画(案)

2024 年 4 月 13 日

中部本部愛知県支部 社会貢献委員会 食問題研究会

### 1. 今期の基本方針

食問題研究会(旧 HACCPWG)は、1999 年 8 月に発足し、2024 年で、25 年目の節目の年を迎える。当初は、食品の安全・品質管理システムと第三者機関による認証システムの導入の普及を目指す、勉強会(HACCP WG)として発足したが、その学習が、一段落した後、愛知県支部の発足に伴い、広く食に係わる問題を議論する場である食問題研究会として活動してきた。この間、食品の安全・品質管理システムの普及と第三者機関による認証システムの導入の普及は、あまり進まず、結果的には、2022 年の東京オリンピックに合わせる形で、2018 年法体系の中に HACCP システムによる管理システムを組み入れる形で食品衛生法が改正され、この問題は、一応決着することになった。しかし、食のグローバル化と食品の生産・保管・加工技術の急速な進展は、調理済み食品や健康補助食品の普及と増大等我々の食生活に重大な影響を及ぼすと共に、遺伝子組み換えやゲノム編集食品や人工肉、培養肉の出現等の新たな食環境をもたらそうとしており、こうした中で、ウクライナ戦争にみられる地政学的リスクが、食料や肥料のサプライチェーンの不安定化を通して、食生活の根幹を脅やかす現実にも直面している。食をめぐる問題は、25 年前とは、全く異なる新たな段階を迎えたと云える。このため、今年度は、今までの議論や資料をまとめ食の 25 年をあらためて総括し、今後の食問題の着目すべき領域と視点をまとめる年度としたい。

### 2. 今年度の主な活動内容

#### 1)テレビ会議システムと対面会議の併用による議論の活発化

テレビ会議システムと対面会議の併用の方法を模索し、議論の一層の活発化をはかる。

#### 2)テーマに沿った食品関連情報の交換と討議

食の生産・保存・加工・流通・消費・吸収に係わる問題をテーマに沿って収集・議論する

#### 3)食品関連情報のまとめと情報発信

技術士会会員と一般向けの情報発信への取り組みを進める(講演会・WS・投稿等)

### 3. 定例会議とスケジュール

#### 1) 毎月の定例会議 毎月第 2 土曜日 13:30~15:00(zoom 会議又は花車ビル北館 B2 会議室)

会議の時間帯を午後に変更。Zoom の設定を 13:30~17:00 まで、企業活動研究会との一括設定とした

#### 2) 定例会議スケジュール 当面 zoom によるリモート会議(6/1)は愛知県支部年次大会のため変更)

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
定例	93 回 288 回	94 回 289 回	95 回 290 回	96 回 291 回	休 み	97 回 292 回	98 回 293 回	99 回 294 回	100 回 295 回	101 回 296 回	102 回 297 回	103 回 298 回
開催日 (曜日)	13 日 (土)	11 日 (土)	1 日 (土)	13 日 (土)	休 み	14 日 (土)	12 日 (土)	9 日 (土)	14 日 (土)	11 日 (土)	8 日 (土)	8 日(土)
司会 議事録	長谷川 長谷川	犬丸 長谷川	新美 松田	長谷川 長谷川	休 み	松田 花井	長谷川 長谷川	長谷川/ 長谷川	犬丸 長谷川	松田 長谷川	新美 長谷川	花井 長谷川

長谷川 (代表)・本堀 (会計)

### 4. 概略予算.(単位:円) 会計担当(長谷川・本堀委員)

WS 支部からの補助	50,000	月例会:会議室使用料、10ヵ月×2,500	25,000
		Web 会議システム他	25,000
収入計		支出計	50,000

作成文責長谷川

## 2023 年度(令和年)企業活動研究グループの活動報告(案)

2024 年 4 月 13 日

中部本部愛知県支部 社会貢献委員会 企業活動研究会

### 1. 2023 年度の WG の主な活動状況

新型コロナの 5 類指定で、様々な制約がなくなったものの、コロナ下での生活習慣の変化で、対面での会議開催が会場の確保等の難しさもあり、当初計画どおり、Zoom によるリモート会議で、第 278 回(4 月)から第 287 回(3 月)まで毎月約 1 回のペースでリモート会議を開催できた。ただ、技術士会会員と一般向けのワークショップについては、全国大会の関係で実施せず、メンバーがその主要な情報を技術士中部に論文の形で発表するのみとなった。

### 2. 202 年度の当初計画

#### 1) テレビ会議システムの継続と発展

テレビ会議システムを継続するとともに、その在り方や発表方法の一層の発展を図る。また、適切な時期に対面での会議も復活させることも検討する。

#### 2) 事業継続を中核とする諸規格の動向報告と討議

デジタル化・セキュリティ・災害・貿易サプライチェーン動向や話題の情報交換と討議。

#### 2) エネルギー・環境問題の動向報告と討議、

エネルギー・環境・変化の展望と技術動向について情報交換と討議。

#### 3) AI、5G、IoT、自動運転等情報技術の動向報告と討議

企業に影響を与えそうな技術革新関連情報の交換と討議を行う。

#### 4) 技術士会会員と一般向け討論会の開催

全国大会の開催を控えていることもあり、独自のワークショップの開催は見送ることにした。

### 3. 活動実績

#### 1) テレビ会議システムの継続と発展

Zoom によるリモート会議は、定着したが、会場の確保が困難で、対面会議は開催は出来なかった。

#### 2) エネルギー・環境問題の動向報告と討議、

地球温暖化防止と共に、再生エネルギーを主力とする欧州のエネルギー危機や原発技術の動向等がパンデミック下の米中対立等安全保障とも絡んで取り上げられると共に、DX や EV 車等エネルギー自動車を中心とする製造業取り巻く技術動向について議論した。

#### 3) AI、5G、IoT、自動運転等情報技術の動向報告と討議

CAT GPT の出現で、AI 関係を中心としたテーマ、メタバース、量子コンピュータ等先端の科学。技術めぐる技術関連動向や政府の技術支援政策の動向等の情報交換と討議を行った。

#### 4) 技術士会会員と一般向け討論会の開催

### 4. 予算と実績

Web 会議使用料とその関連費用は、支部管理下で行った。

(代表新美由香史 会計 長谷川欽一)

## 2024 年度 企業活動研究会活動計画(案)

2024 年 4 月 13 日

中部本部愛知県支部 社会貢献委員会 企業活動研究会

### 1. 今期の基本方針

旧愛知県技術士会の WG として 1998 年に設立され企業活動研究会(旧 ISO14000WG)は、2023 年度もリモートでの会議で活動を続け、今まで合計 287 回(愛知県支部の社会貢献委員会の WG としては、92 回)の研究会を開催してきた。発足当時は、経済のグローバル化に伴う市場への対応としての企業のマネジメントシステムの ISO9001 や ISO14001 等の適合

が大きく問題となる時代であった。企業活動の環境への適合性については、SDGs と云う形で残っているが、ISO9001 や ISO14001 等のマネジメントシステムへの適合性とその有効性については、それ程重視されなくなってきた。それに代わって、急速に発展した通信環境への適合やコロナ下で、急速に進展したデジタル化への対応、経済安全保障等のサイバセキュリティクリアランスや事業継続のためのサプライチェーンの確保等が、大きな課題として意識されるようになってきた。とくに CAT GPT にみられる生成 AI の出現は、企業やその中で働く、技術者、労働者の仕事や企業活動の在り方を劇的に変化させようとしており、それに伴い関連法規制も刻々と変化している関係上目を離せない。つまり、企業は、技術そのものの急変とそれに伴う法規制の二つの変化に晒されていることになる。マネジメントシステムより、技術の中見が問われる時代が再びやってきたのではなからうか。今期は、こうした市場環境の劇的変化を企業とその中の技術者がどのように受け止め対応してゆくべきか、過去 25 年間の日本の企業活動を振り返りながら考える年にする。

## 2. 今年度の主な活動内容

### 1) リモート会議システムの継続と発展

テレビ会議システムを継続するとともに、その在り方や発表方法の一層の発展を図る。また、対面での会議も復活させ、議論の活発化と充実を図る。

### 2) 事業継続を中核とする諸規格の動向報告と討議

デジタル化・セキュリティ・災害・貿易サプライチェーン動向や話題の情報交換と討議。

### 2) エネルギー・環境問題、安全保障等の動向報告と討議

エネルギー・環境・安全保障問題の変化の展望と技術動向について情報交換と討議。

### 3) チャット GTP 等 AI、5G、IoT、メタバース、自動運転等情報技術の動向報告と討議

企業に影響を与えそうな技術革新関連動向の情報の交換と討議を行う。

### 4) 技術士会会員と一般向け討論会の開催と情報発信

本年度は、過去 25 年間の振り返り、経済安全保障を踏まえた地球温暖化問題、エネルギー問題、通信技術とサイバーセキュリティ、生成 AI の利用と法規制等を包括的に議論するワークショップを開催するようにする。この課題に取り組む中で、さらに情報の整理と情報発信力を高める方法を模索してゆく一年としたい。

### 5) その他環境対策技術及び関係先からの要請対応

自治体や各種団体などからの要望に対応した活動は適宜幹事会と協議して行なう。

## 3. 定例会議とスケジュール

### 1) 毎月の定例会議 毎月第 2 土曜日 15:15～17:00 (花車ビル北館 B2 会議室)

会議の時間帯を変更。Zoom の設定を 13:30～17:00 まで、食問題研究会との一括設定とした

### 2) 定例会議スケジュール 当面 zoom によるリモート会議(6/1)は支部年次大会のため変更)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
定例	93回 288回	94回 289回	95回 290回	96回 291回	休 み	97回 292回	98回 293回	99回 294回	100回 295回	101回 296回	102回 297回	103回 298回
開催日 (曜日)	13日 (土)	11日 (土)	1日 (土)	13日 (土)	休 み	14日 (土)	12日 (土)	9日 (土)	14日 (土)	11日 (土)	8日 (土)	8日(土)
司会 議事録	長谷川 長谷川	犬丸 長谷川	新美 松田	長谷川 長谷川	休 み	松田 花井	長谷川 長谷川	長谷川/ 長谷川	犬丸 長谷川	松田 長谷川	新美 長谷川	花井 長谷川

新美 (代表)・長谷川 (会計)

## 4. 概略予算.(単位:円) 会計担当(長谷川・新美委員)

WS 支部からの補助	50,000	月例会:会議室使用料,10ヵ月×2,500	25,000
		Web 会議システム他	25,000
収入計		支出計	50,000

# 2024年 YGF（ワイガヤフォーラム）活動計画

2024年4月 森永泰彦

## 1. 活動の目的

- ◇ メンバー会員の輪番制あるいはその都度気づいた問題に関して発表、ワイワイガヤガヤと討議・意見交換し知見とメンバー間の相互理解を深める。
- ◇ これらの討議の過程で得られた成果を会員技術士のみならず広く一般社会にも発信し、社会の厚生に寄与することを目指す。

## 2. 2023年度活動履歴

### (1) 月度例会

前年度に引き続き Zoom によるリモートで開催した。

日付	講師(敬称略)	テーマ
2023/4/26	森永泰彦	循環経済への誘い 欧州とわが国の取り組みの違いから課題を探る
2023/5/31	前田 武光	私たちの電気
2023/6/21	高木 俊一	メタバースの世界
2023/7/26	山口 正隆	日本の食料・環境・資源を考える。 ～ 令和5年度食料・農業・農村白書等から～
2023/8/30	花井 健夫	化学物質の自立的管理の新転換 —労働安全衛生法の大幅な改正—
2023/9/27	井上 祥一郎	豊かな湖の復活に向けた 『自治体連携』最初の一步を画策中
2023/10/25	盛田 直樹様	手短なところから始める DX 事始め ～個人投資程度でもできることから収益改善～
2023/11/29	長谷川 欽一	書籍紹介「70歳のたしなみ」坂東真理子、「還暦からの底力」出口治明ほか
2023/12/27	水野公元	日本の地熱発電について
2024/1/24	野々部顕治	節水技術と水の再利用技術の話
2024/2/21	大磯勇己	草の根活動(主に声かけ)による PC スキル向上作戦
2024/3/27	松田則雄	食問題の現在—人間にとっての食とは何か—

### (2) 講演会

今年度は、全国大会が愛知県支部担当となったため、開催せず。

### 3. 今年度の活動

#### (1) 月度例会

高齢者も多く、遠隔地の参加者もいるので、Zoom での開催を念頭において進める。なお、話題提供は以下を予定している。

日付	スピーカー	テーマ
2024/4/**	久慈 聡	
2024/5/**	稲垣拓之	
2024/6/**	森永泰彦	(仮) 人新世の時代、どう生きるべきか
2024/7/**	前田 武光	
2024/8/**	高木 俊一	
2024/9/**	山口 正隆	
2024/10/**	花井 健夫	
2024/11/**	井上 祥一郎	
2024/12/	野々部顕治	
2025/1/	大磯勇己	
2025/2/	久慈 聡	
2025/3/	松田則雄	

#### (2) 講演会

9/22(日)YGF 講演会

テーマ「生成系 AI の出現、その解説と見通し、そして我々技術士はどう対応すべきか」

講師 石川英司先生 (情報工学部門)、新美由香史先生 (経営工学部門)

以上

# 2023 年度理科支援活動報告と 2024 年度計画

2024 年 4 月 20 日

理科支援小委員会 野本健司

## 1. 2023 年度の理科支援活動の取り組み

### 1-1 特別講師実施状況

2023年度は小中学校にて、計28件の特別講師を実施した。愛知県が比較的多く、次いで静岡県が多かった。その他、教育イベントなどに多数参加した（詳細は表1参照）。

表1 2023年度に小中学校などで実施した理科特別授業

名古屋市

No.	日付	学校	題目	学年、組
1	7月5日	名古屋市立瑞穂小学校	自由研究のテーマを見つけよう	3-1、3-2、3-3

愛知県

No.	日付	学校	題目	学年、組
1	9月22日	瀬戸市立八幡小	私たちの住んでる町の地形と地層	5-1、6-1
2	11月1日	豊川市立三蔵子小	地層を構成する「れき・砂・泥」の標本づくり	6-1、6-2、6-3
3	9月22日	豊川市立一宮南部小	風力発電機を作ってみよう	3-2,3、4-2,3、5-3
4	10月27日	瀬戸市立掛川小	紙飛行機の曲がり方、てことつりあい	1,2,3,4,6年
5	9月20日	豊橋市立玉川小	地盤災害	6-1
6	7月7日	岡崎市立本宿小	樹木の不思議	3-1,2
7	12月8日	西尾市立横須賀小	水溶液の性質を利用して水をきれいにしよう	6-1,2
8	1月16日	西尾市立平坂小	プログラミングでLEDのいろいろな点灯をためし、省エネを考えよう	6-1,2,3
10	12月21日	犬山市立羽黒小	水溶液の性質を利用して水をきれいにしよう	6-1,2
11	10月11,12日	高浜市立翼小	水溶液の性質を利用して水をきれいにしよう	6-1,2,3,4
12	9月21日	尾張旭市立洪川小	わたしたちの住んでいる町の地形と地層をつくる「れき・砂・泥」	6-1,2
13	10月11日	知立市立八ツ田小	わたしたちの住んでいる町の地形と地層	6-1,2
14	11月22日	幸田町立豊坂小	わたしたちの住んでいる町の地形と地層をつくる「れき・砂・泥」	6-1,2
15	9月6日	愛西市立永和小学校	太陽と地球と月の関係	6-
16	12月1日	愛西市立永和小学校	水溶液の性質を利用して水をきれいにしよう	5-1,2
17	9月15日	あま市立美和小	地層を構成する「れき・砂・泥」の標本づくり	6-1,2
18	11月28日	東浦町立石浜西小	紙飛行機の曲がり方、てことつりあい	4-1,2,3
19	1月15日	幸田町立豊坂小	振り子の運動（振り子の等時性）	5-1,2
20	9月14日	東郷町立兵庫小学校	太陽と地球と月の関係	6-1,2,3
21	10月24日	東浦町立石浜西小学校	わたしたちの住んでいる町の地形と地層	6-1,2

三重県

No.	日付	学校	題目	学年、組
1	2月6日	津市立片田小学校	micro:bitの授業プログラミングでLED点灯を試して省エネを考えてみよう	

静岡県

No.	日付	学校	題目	学年、組
1	10月20日	御前崎市立浜岡北小学校	地層を構成する「れき・砂・泥」の標本づくり	6-1
3	9月8日	伊豆市立修善寺東小学校	二酸化炭素・ドライアイスを使った実験で化学を楽しもう	クラブ活動
4	10月19日	伊豆市立修善寺東小学校	水溶液の性質を利用して水をきれいにしよう	クラブ活動
5	9月22日	三島市立中郷小学校	土地のつくりと変化（地下の地層を見てみよう）	6-1,2,3
6	9月29日	三島市立中郷小学校	太陽と地球と月の関係（月の満ち欠け、月食）	6-1,2,3
7	10月27日	裾野市立南小学校	地層を構成する「れき・砂・泥」の標本づくり	6-1,2

他の教育イベントなど

No.	日付	場所・イベント名	題目・講座	対象
1	6月11日	知立市 ナスモルラボ講座	くらしに役立つ生物のスゴ技を発見しよう	初級
	10月22日		風力発電機をつくってみよう	中級
	12月10日		身の回りの物で電池を作ろう	中級
	2月18日		micro:bitで電子サイコロを作ろう	中級
	3月3日		油を使ってエコキャンドルをつくってみよう	初級
	4月21日		私たちの住んでる町の地形と地層	中級
2	5月12日		どうしたら割らずに生卵とゆで卵を見分けられるか？	初級
	8月4日 8月14日	夏休み環境学習講座	くらしに役立つ生物のスゴ技を学ぼう 風力発電機をつくってみよう	小学生と保護者
3	3月24日	知立南小桜まつり	地震を想定した液状化の実験	小学生、中学生と 保護者
			3Dメガネでいろいろな地形を見てみよう	
			備長炭で電池を作ろう	
			micro:bit（マイクロビット）で遊ぼう！	
			どうしたら割らずに生卵とゆで卵を見分けられるか？	
風力発電機をつくってみよう				
4	7月29日	静岡県地震防災センター 「防災・減災ワークショップ2023 ヤバい！逃げる“か がく”は役に立つ」	富士山噴火のきけん 自治会活動のやりわり 避難所での過ごし方	小学生、中学生

### 1-2 理科実験授業研究会

下記の通り実施した。新型コロナの影響も一部にはあったが、いずれも Web だけでなく中部本部会議室とのハイブリッド開催とした。

表 2 2023 年度に実施した理科実験授業研究会

日付	場所	内容	題目	講師（敬称略）
4月30日	Zoom+中部本部会議室	実演	身の回りのもので電池をつくろう	春田要一
7月30日	Zoom+中部本部会議室	実演	暮らしに役立つ生物のスゴ技を学ぼう	加藤信夫
10月29日	Zoom+中部本部会議室	実演	建物の地震に対するそなえについて	壽松木一哉
10月29日	Zoom+中部本部会議室	実演	ふりこの実験	吉田建彦
1月28日	Zoom+中部本部会議室	実演	わたしたちのまちと地図	西本テツオ

### 1-3 第49回技術士全国大会（愛知・中部）技術展示ブース出展

当委員会は技術士全国大会の技術展示において、展示ブースを設け、出展した。この機会を通じて、中部本部が推進する理科支援の取り組みを全国の技術士に広く紹介することができた。また、意見交換の場を設けることにより多くの有益なフィードバックを得ることができた。さらに、展示ブースでの活動は一部、新聞記事にも掲載され、より広範囲の認知を得ることにつながった。

## 2. 2024年度の主要な計画

### ① 提案活動の強化

各県の教育委員会等に対する積極的な提案活動とアピールを行う。統括本部、中部本部、山崎財団等の支援制度を活用し、実施件数の増加を図る。特に、新型コロナウイルスの影響等で特別講師のオファーが途絶えた県に対しては、再開に向けてフォローを強化する。

### ② キャリア教育プログラムへの参加

技術士全国大会を通じて得た情報によれば、名古屋市内の小中学生を対象としたキャリア教育プログラム「ナゴヤキャリアタイムサポーター」が、2024年秋頃に開始予定である。本委員会は、このプログラムに参加する方向で計画を進めている。この取り組みを契機に、近年の課題である名古屋市内の特別講師オファーの拡大を目指す。

### ③ 理科実験授業研究会の開催

理科実験授業研究会は、2024年度も年4回の定期開催を予定している。2020年後半に開始したオンライン配信は確立しており、Webだけでなく、会場での実演と併せたハイブリッド形式での開催を継続する。理科実験は実際に体験することが何よりも重要であり、今後は会場での臨場感をオンライン配信でもしっかりと伝えられるよう、配信方法等の改善を進める。

### ④ その他の理科支援活動

「ナスもルラボ講座」や「知立南小桜まつり」に出展する。また、「夏休み環境学習講座」等の環境教育や、「こども防災教室」等の防災教育にも取り組む。さらに、岐阜県大垣市の文化事業団による理科支援イベント「科学大好きセミナー」については昨年同様、後援を予定している。また、ホームページの情報は定期的に更新し、情報が滞らないようにする。